

健康と光線

はじめに

前号に続き日常経験することが多い外科的疾患の中から、局所的な循環障害に起因する疾患を取り上げ、サナモアの使い方について記述します。

循環障害

主な症状が局所的な循環障害に因るとしても、大半は全身性疾患の一部分であり、全身的な血液循環も悪くなっています。従って、サナモア光線療法を行うに当たっては、患部照射だけでなく基本照射(全身照射)を必ず併用しなければなりません。即ち、基本照射によって全身の血液循環を改善させると共に、患部には長時間、頻回照射を行って局所充血を起こさせ、局所循環を促進させることが大切です。

腰、膝、足裏に各5—10分、1日1回の基本照射に加えて、患部にはA(B、A/C又はB/C)カーボンで、出来るだけ多方向から30—60分、1日2—3回をめぐりに照射します。

(1) とくすれ(褥瘡)

長期に臥床を強いられる衰弱患者の仙骨部(腰部)や大転子部(大腿上部外側)やかかととは、持続的に圧迫され、血行が局所的に杜絶するたため、組織は早晩壊死(局所死)に陥ります。壊死を起こした部位の皮膚は青黒くなり、壊死部は肉芽組織で分界されて離脱し、治りにくい潰瘍を作ります。これを褥瘡潰瘍と呼びます。

サナモアは病巣部の血液循環を佳良にするだけでなく、殺菌作用によって肉芽組織を清潔に保つと共に、肉芽の形成を促す作用がありますから、治癒に至るまでの期間を短縮します。なお褥瘡の予防が特に大切です。それには栄養状態を良好に保ち、圧迫され易い部位に軟らかい下敷きを当てがったり体位を頻繁に変え、局所を清潔に保つと共に

発行所

〒153
東京都目黒区目黒
4-6-18

サナモア光線協会

年4回発行
会費 年500円
電話 東京(03)
793-5281
712-5322

日常経験する外科的疾患に 対するサナモア光線療法(その2)

サナモア光線協会
サナモア中央診療所
医学博士 宇都宮 光明

している職業の人が起こし易い病気にです。

初期には自覚症はありませんが、進行すると下肢の疲労感や痛みを訴えたり、皮膚が萎縮して湿疹を起こし易くなります。また血行不全が高度になると、下腿潰瘍(静脈瘤性潰瘍)を生じます。

光線療法は症状を改善し、悪化を予防します。なお下腿潰瘍は極めて難治ですが、根気よく治療を続けることで治癒させることが可能です。

に、予防的に光線を照射することが極めて有益です。

静脈瘤

下肢に最も好発します。血液の逆流を防ぐ静脈弁の不全により、殊に起立時に静脈血を心臓に還流する機能が妨げられ、静脈が迂曲、拡張します。中年以降の女性に好発しますが、理髪師や調理師のように長時間起立

(3) レイノー病

四肢、特に手指が間欠的に蒼白になり、冷感や痛みがあり、発作を繰り返すうちに潰瘍になることもあります。血管運動を支配する自律神経の交感神経が緊張して血管が収縮し、血行障害を起こすためと考えられています。原因はよく分かっていません。圧倒的に女性に多い病気で、若年者(10—20歳代)に好発します。

光線療法は他の治療と比べて顕著な効果を示します。照射法は四肢末端(手掌と手背、足裏と足甲)各10—20分、肘や膝に前後から各10分、腹10分、腰10分です。

なお一次的に同様な症状を起す場合をレイノー症候群と呼び、チェンソーを使う林業労働者に見られる白ろ病、膠原病などで起こします。

高度の動脈硬化を起こし内腔を閉塞します。全身性動脈硬化症の一部分で高年の男性に好発します。臨床的には次のバリエーションと似た症状を呈します。治療は患部照射に加えて必ず基本照射を行い、コレステロールの値を低下させると共に全身の血液循環を促し、同時に他臓器の血管合併症を防ぐことが大切です。

(4) 閉塞性動脈硬化症(老人性壊疽)

糖尿病や高血圧が誘因となつて高度の動脈硬化を起こし内腔を閉塞します。全身性動脈硬化症の一部分で高年の男性に好発します。臨床的には次のバリエーションと似た症状を呈します。治療は患部照射に加えて必ず基本照射を行い、コレステロールの値を低下させると共に全身の血液循環を促し、同時に他臓器の血管合併症を防ぐことが大切です。

(5) バリエーション病(閉塞性血栓性血管炎、特発性脱疽)

下肢の主幹動脈が血管炎を起こして血栓を生じ、内腔を閉塞

し血流を阻害します。青壮年期の男性に好発しますが原因は分かっておりません。喫煙者に多く発病します。

症状は下肢のしびれ感、冷感に加えて、痛みのため休み休み歩けるようになります。また足の指先に傷をつくり易くなり、一旦出来ると血流が途絶えているためなかなか治りません。進行悪化して下肢末端が壊疽を起こしたときは、患肢を切断することがあります。

初期ならば炎症を鎮め血流を促すことによって病状の進行、悪化を抑制します。またある程度進行して治療に難渋する創傷を生じていても改善します。必ず禁煙すること。

(6) 象皮病

リンパ節が広範囲に破壊されるか手術的に切除され、リンパ液の還流が甚だしく障害されるのが原因です。特にがんの根治手術として所属リンパ節の廓清術が普及するに連れ、術後合併症として手、足の象皮病を見る機会が多くなりました。なお熱帯地方および沖縄や伊豆諸島では、フィラリア原虫がリンパ管に寄生するフィラリア症で起こします。

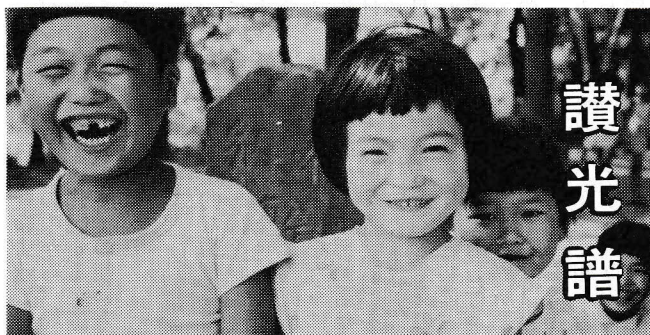
手や足のリンパ液が流れないと浮腫を起こし、始めは押すと凹みますが、段々と腫れがひどくなり、病気が長く続くと線維組織が増殖して象の皮膚のように硬くなります。

照射を術直後から行うことによって、発病を予防し、症状を軽減することが期待できます。なお所属リンパ節(腋下、鼠蹊部)へ掛けることを忘れないでください。



宇都宮義真撮影

「おともだち」



讃光譜



我々の呼吸する空気は可能な
かぎり太陽の光線に当てなければ
ならない。人間の敵である病
原菌は日光にあたれば死滅する。
のみならず太陽の光線は我々に
細菌に対する抵抗力を付与し、
かつクル病の場合のようにある
種のビタミン欠乏症による化骨
障害を予防する効果がある。

骨を強くするにはカルシウム
を多く摂る必要があるとして、
カルシウムを比較的多く含有す
る食物、例えば小魚、貝類、海
草、牛乳の如きものが盛んに用
いられている。

併しカルシウムを与えさえす

れば吾人の骨は直ちに強くなる
かというと、人体はそれほど簡
単便利には出来ていない。我々
の体内にカルシウムの欠乏を来
す原因は、カルシウムを摂取す

ることの不足よりも吸収するこ
との出来ぬ体質的な欠陥に起因
する場合が多いからである。故
に先ず根本原因たる体質を改善
することが肝要で、無闇にカル

太陽を忘れてはならぬ

宇都宮 義真

シウムを口から入れた処で単に
消化器の負担を加重するだけで
何等の効果も期待し得ないので
ある。

このようにカルシウムを如何

に多量に摂っても、もしビタミ
ンDがなければ骨は決して丈夫
にならない。即ち食物中のカル
シウムを吸収し骨にカルシウム
と燐を沈着させる化骨作用は、
ビタミンDの補助的作用を絶対
に必要とするのである。

光線に独特のもので何人も否
定できない作用に、

1、皮内の7-デヒドロコレス
テロールを活動性のビタミン
Dにする(ウインダウス氏—
ノーベル賞受賞)。

2、血液中のカルシウムを増す
(ロートマン氏、カルレンベ
ルク氏)。

3、骨を強靱にする。
がある。

この働きは光線の持つ不可思
議なる作用の一部分に過ぎない
のである。最近の研究によると

肺結核には光線が特に有効だそ
うだが、その他の慢性疾患の予
防や治療効果を一層強化させる
だけでなく、更に無病息災の人
人の健康保持に役立つことも想
像に難くない。

光線療法は広く一般的に利用
されるべきである。差し当たり
温かいから効果があるのだ位の
考えしか持っていない人には大
いに認識を新たにして貰いたい。
光線療法には人体の諸機能を強
化し体質を改善する作用のある
ことが既に明らかにされている
のである。言うまでもなく単に
化骨作用だけをとりても必要欠
くべからざるものなのである。

— 光線と化骨作用 —

「光と熱」昭和13年8月1日発行

— 太陽を忘れてはならぬ —

より要約した。

(前)号にビタミンD剤(日本では普通薬扱いのため簡単に入手できる)を経口的に過剰に摂取すると重大な弊害をもたらすので、誰も自己の判断で絶対に服用してはならないことを述べた。ビタミンDを薬として使用するには、高度に専門的な知識と細心の注意が必要である。ビタミンA、D、Kの如き脂溶性ビタミンは、ビタミンB、Cなどの水溶性ビタミンと異なり、殆ど尿中に排泄されず、僅かに糞便中に排泄されるだけなので、体内に蓄積して中毒症状を起こすのである。そのため勝手に飲み過ぎれば、ビタミンD過剰症と呼ぶべきとした病気になることを忘れてはならない。このビタミンD過剰症について概説する。

(既)に述べたように、一九三〇年代にウィンダウスらがビタミンDの分子構造を解明し有機合成法を確立したことによって、ビタミンDは極めて安価に手に入るようになった。その結果、欧米では牛乳や調製粉乳を始め、色々な食品にビタミンDを添加して、長年に亘り人々を苦しめたクル病や骨軟化症を地上から抹殺すると共に、保健の目的に使用せんとしたのである。

(し)かし、そのことがビタミンDの本質、即ち地上の総ての生物は光線の助けを借りてビタミンDを生成するのが自然の理に適用事実を見誤らせ、一方で母乳栄養児(ビタミンDを含まない)や乳製品を摂らない菜食主義者の子どもに未だに欠乏症(クル病)を散見する事態を生じ、他方でビタミンD添加乳製品を摂取している子どもで高カルシウム血症などの過剰症を認めるようになったのである。

(健)康な人々が健康を保持するために光線を浴びることは、一つビタミンDを例に考えても絶対的に不可欠である。この摂理を無視したが故に、ビタミンDに関する弊害を引き起こしたと云っても過言でない。以前にビタミンD欠乏症は文明病と述べたが、ビタミンD過剰症もまた文明病である。これまで繰り返し記述したように光線なら如何に過剰に浴びようがビタミンD過剰症は起こさないのである。

応用光線療法学 (33)

□ ビタミンDの作用 □

その 30

高度の食欲不振に陥り、吐乳、体重減少、便秘あるいは下痢、多飲多尿、皮膚乾燥、筋力の低下、精神症状など多彩な臨床症状を呈する。他方、軽度な高カルシウム血症でも長期に持続すると、本来ならカルシウムが沈着しない腎臓や動脈壁などの他の臓器に沈着する異所性石灰化を引き起こし、そのため臓器障害を来すことがある。その外、血圧

である。

それ故、実際にイギリスで一九五二年に育児用乳製品を除いてビタミンD強化食品を制限したところ、それを切っ掛けに原因不明と思われていたカルシウム血症は激減したのである。

(今)日でこそ、ビタミンDが過剰になり、その作用が亢進すると腸管からのカルシウムの吸収を促進し、骨の骨端部では石灰沈着を促進するが骨幹部では却って脱灰を起こし、骨からカルシウムを動員して高カルシウム血症を起こすことが明らかにされているが、当時はそこまで分かっていたいなかったのである。

(ビ)タミンDの過剰摂取に伴う症状は、大別して急性と慢性がある。ビタミンDの摂り過ぎで急激に高カルシウム血症を起こした場合には、殊に乳児では

ビタミンD過剰症の臨床所見

- 胃腸症状
食欲不振、口渇、多飲、悪心、嘔吐、下痢、便秘、腹部不快感、体重減少。
- 全身倦怠感、脱力感
- 精神・神経症状
頭痛、記憶力障害、錯乱、傾眠、昏睡、関節痛、筋肉痛、筋力低下、腱反射減弱。
- 腎臓障害
多尿、頻尿、尿濃縮力低下、代謝産物(尿酸素やクレアチニン)の上昇、腎不全。
- 高カルシウム血症
血中コレステロール値の上昇、血圧の上昇
- 異所性石灰化
腎・尿路結石、血管の石灰化

医学博士

宇都宮 光明

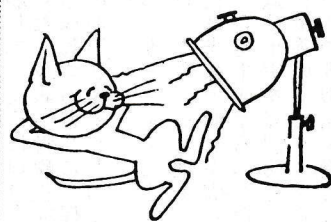
が上がったり、血中コレステロール値が上昇したり、腎機能障害(最悪の場合、急性腎不全になる)を起こしてBUNやクレアチニンの値(腎臓から排泄される窒素代謝産物)が高くなったり、レントゲン検査で結石を随所に認めるようになる。

(表)にビタミンD過剰症の臨床所見の概要を示したが、これらの症状は殆どビタミンDの作用が亢進して起こる高カルシウム血症に由来するのである。換言すれば、ビタミンDの作用の延長線上にある副作用であって、異物としての薬剤の薬理作用に基づく毒性とは本質的に異なるものである。従って、ビタミンDの過剰投与を防ぐには、血中カルシウム濃度に細心の注意を払い、高カルシウム血症を起こさせないことが肝要なのである。

(ビ)タミンD過剰症の治療は、発見が早ければ極めて簡単に、服薬を止めれば二―三週間間で症状は消失し、血液や尿の異常所見も正常化する。しかし、重症な中毒を起こし体内に大量のビタミンDが蓄積すると、回復に半年、一年を要することも稀でなく、様々な後遺症を残すこともあるので注意が必要である。

(原)始の世界に溯れば、ビタミンDについて何の知識もなくしていたからビタミンD欠乏症はなかったと考えて大きな誤りはない。これが産業革命による大気汚染や生活環境の変化によってビタミンD欠乏症を起こし、それを治療せんとしてビタミンD過剰症が生じたのである。

この事実、如何に太陽光線が重要かを如実に物語っており、光線医学の先覚、ヘスが一九二五年に残した「太陽光線こそビタミンDである」との言葉を今こそ頭に刻み込むことが求められているのである。



— 治験例報告 —

☆異物(ガーゼ)を排出した急性中耳炎

症例 八歳 男児

症状 急性中耳炎のため、近頃の耳鼻咽喉科医院に治療に通院していたが、予期に反して段々悪くなり、激しい痛みで夜も寝られなくなった。どうした事かと不安になり、別の病院の耳鼻科を受診したが、そこでは手術をするように言われた。丁度そんな時にサナモア光線療法をすすめられて来所した。

療法経過 右耳が激しく痛み、聞こえが悪く、膿性の耳垂れが出ていた。患者は身体が割りに小さいため、右耳は二号集光器を使い、外は一号集光器を使って治療した。

右耳は痛みが激しいのでBCカーボンを用い、右耳たぶを中心15分、右耳と後頭部の間10分、外にAAカーボンで、腹、腰、背に各5分照射した。治療を始めてから三日目に耳の奥に膿と一緒に何かが見えた。それが四日目には耳の入口まで

出てきたので、ピンセットで取って見たら、酷い悪臭の腐敗したガーゼが出た。これを切った後に痛みは急速に和らぎ、安眠できるようになり、その後一週間の治療で膿もでなくなった。(最終的には手術をせずに完治したので、大変に喜ばれました。)

神戸市 ウエノ光線療法

上野 貞氏報告

TEL 〇七八三九二一八三〇三

(電話番号が変わりました)

☆薬疹

症例 三七歳 女性

症状 漢方薬の風邪薬を二、三時間の間に二包服用して二、三時間したら、顔を除き全身、中でも背中や腰や腹や大腿部が非常に痒くなった。それで光線を掛けようと思ひ着衣を脱いで、大きいのは直径一〇cm以上になる蕁麻疹様の発疹が至る所に出ていた。それを見たら益々

痒みが増し、かいたら発疹は見るうちに互いに融合して吃驚するほどの大きさに広がった。このような発疹は生まれて初めての経験だったので慌てて相談を兼ねて来所した。

療法経過 夕方の5時頃から夜の12時頃まで、適宜二台の治療器を使って治療した。まずBBカーボンで特に痒みのひどいところから照射を始め、途中肝臓部はBDカーボンに変えて前後からそれぞれ相当長時間照射した。照射中、カーボンの組み合わせを変えたり、照射野を全開したり集光したり、色々と工夫しながらほぼ全身に照射したところ、終わる頃には痒みはすっかりなくなり、発疹も僅かに跡形を残すだけになった。なお照射中にビワ葉煎汁、梅肉エキスを飲んだ。

照射後には自覚症もなく気分が良かったので、酵素風呂に入ってから床に就いた。翌朝は発疹も子供のところから使ってきただけにとてもなつかしさがあってをりました。これから毎日続けることとございましょう。

☆サナモアを息子家族にプレゼント

沼津市 芝 淳子

早速サナモア、藤沢へ御送り頂き有難うございます。

昨夜、息子から届いたと電話があり、すぐ使用しはじめたと喜んでおりました。家にあるサナモアは随分古いもの

☆自律神経

で、息子も子供のころから使ってきただけにとてもなつかしさがあってをりました。これから毎日続けることとございましょう。

兄も弟も愛用しており、父が生前「サナモアをしたか？」とよく申していましたが、息子、そして今度は孫も愛用することになりました。有り難い事と存じます。これからも宜しくお願い申し上げます。

また、顔に出来ていたシミが少しずつ取れてきており大変喜んでおります。

☆わきが(腋臭症)

症例 二八歳 女性

症状 思春期頃から「わきが」が気になっていたののでその悩み

を友達に打ち明けたら、とても良い治療院があるから行って見たらと紹介されて来院した。

春日市 前田光線治療所

前田 ミサ氏報告

TEL 〇九二五八二二〇三九

わきがは腋窩に最も多いアポクリン腺(汗腺の一種で毛髪と共にあり大汗腺とも言う)が数的に増し、かつ機能が亢進するためとされるが本態は不明である。しかし皮膚に常在する細菌が臭気に関係することは確かである。この点からも光線療法の効果は大いに期待し得る。

療法経過 AAカーボンを使用、左右腋の下10分、腹10分、背5分、腰5分、膝5分。毎日一回の治療を続けたところ、一五日程度で周囲の人から臭いがなくなると言われ大変に喜んでいました。その後五日間治療をしてから、これを機会にこれからは自宅でサナモア光線治療を続けることを約束して通院治療を打ち切った。

川崎市 東京光線治療院

海渡 一二三氏報告

TEL 〇四四一七二二一五〇六九

サナモアカーボンの類似品にご注意下さい

サナモアA、B、C、Dカーボンは、その使用法を書いた著書「光線療法学」ともども愛用者各位の御信頼を頂き、全国津々浦々まで高い評価を受けておりますことは、皆様方よくご存知の通りであります。

ところが他社製カーボンには「光線療法学」をセッとしたり、サナモアA、B、C、Dと効果に同じという根拠もないような文句で互換表を添付して販売している業者がいます。もとより、このような道理にもとる行為をする者が何時の世にもいますが、当研究所としては他社製カーボンを使用した場合の効果について一切の責任はもてませんので、ご注意下さい。

(サナモアカーボンには、製造元イビデン株式会社の商標「B」のマークが必ずついています。)

東京光線療法研究所

続

カルシウムは健康の礎

(その1)

— 乳ガン・結腸ガンを防ぐ —

サナモア光線協会

医学博士 宇都宮 光明

医学が如何に進歩しようとも、自然の摂理を凌駕することなど出来る筈がありません。以前に何回か記述しましたが、毎年夏になる

分が多い自然の偉大な力を蔑ろにするなら、その報いは大きな災いとなって私たちに押し掛かってくるに相違ありません。

と、太陽光線について、太陽光線にいつて為にするかと思えなような話を耳にします。しかし、太陽光線が私たちの健康面を含めて、地球に多大な恵みを与えていることに疑問の余地はありません。極僅かな知識で、現在でも未地な部分

太陽光線とカルシウム

太陽光線とカルシウムの関係について、一通りの復習をしておきます。先ず最も注意しなければならぬ点は、食事でカルシウムに如何に気を配ろうとも、ビタミンDが無ければ生体はカルシウムを吸収できないことです。次に忘れてならない点は、ビタミンDは一部の魚類を除いて私たちが日

ガンの一次予防について

どのようにしてガンになるかについての研究が進捗するにつれて、発ガンに関係する物質や、反対にガンを予防する作用を持つものが逐次解明され、ある程度はガンを予防できることが分かってきました。これを「ガンの一次予防」と呼びます（ガンの早期発見、早期治療のことを「二次予防」と云います）。先般、厚生省はガンを予防するため毎日三十種類の食品を摂るように勧告しました。これは食品の中に発ガン物質があるため、偏食しないことが一次予防に繋がるからに外なりません。このようにガンに結び付くもの（煙草、アルコール、脂肪摂取過多なども発ガンに関係します）

常摂取している食べ物の中に含まれていないため、太陽光線の紫外線によって補うしかないことです。

この点に関して、ビタミンDの発見者マッコールも、各種食品のビタミンD含有量を調べた上で、例えばバターやラードのような動物性脂肪にも必要な量のビタミンDがないことを明らかにし、紫外線浴の重要性を強調しています。

をとり過ぎないようにすると共に、予防効果を持つ抗ガン性物質は積極的に利用することが大切です。予防効果を持つものとして、従来からビタミンA、食事性繊維などが挙げられていますが、カルシウム（ビタミンD）にも同様な効果があることがガ

カルシウムは骨粗鬆症、高血圧症の治療に有効

この問題については、昭和五十九年十月一日に発刊した本紙に、「カルシウムは健康の礎」と題して記載しましたので、要旨のみを簡潔に載録しておきます。

骨粗鬆症は近年の目覚ましい人口の高齢化もあって、特に更年期後の女性で罹病する

ーランドらによって明らかにされました。

日光が乳ガン、結腸ガンを防ぐ

ガーランドらの研究は、昭和五十四年の夏の昼下がりにはジョンス・ホプキンス大学の講堂でアメリカ全土を三〇五六の区域に分けて色々なガンの発病率や死亡率を、それぞれ高い地域を黒く濃く、低い地域を白く色分けした地図を見ていて、乳ガンと結腸ガンで際立った特徴があることに気付いたことから始まったのです。地図はあたかも誰かがカリフォルニアの中央部からアリゾナ、ニューメキシコ、テキサス、テネシー、カリリナを結ぶ線を引いたように見えました。その線の北側、特に北東

部は黒く濃く、高い死亡率を示していました。南側の南カリフォルニア、アリゾナ、ニューメキシコのように日光に恵まれた地帯では、白く死亡率の低いことを表していました。

それを見た時、ガーランドらは日光が発病に何らかの関連があるのではないかと考えがひらめいたのです。

食事は乳ガン、結腸ガンの発病に関係しない

「日光が乳ガン、結腸ガンを防ぐ」と云うためには、現在一般にガンとの関連が指摘されている他の原因、特に食事の内容について検討しておく必要があります。そのためガーランドらは、アメリカ人の食事に関する

(六ページへ続く)

人が激増しました。この骨粗鬆症を予防したい、あるいは治したいと思うなら、最善の積極的な対応策は、

- 一、運動（散歩、水泳など）
- 二、光線浴（日光浴、サナモア照射）
- 三、カルシウム（牛乳、小魚などカルシウムの豊富な食品を摂る）

の三点を欠かさず励行することになります。

高血圧についても同様です。殊に最低血圧一〇〇、最高血圧一七〇ミリ水銀柱前後以下の境界域にある軽症高血圧症や、妊娠後期に見られる中毒症に伴う高血圧は、安直に降圧剤に頼ることなく、減塩など一般的な注意事項に加え、カルシウムを充分に摂取することで正常域まで血圧を下げることが可能です。

〔五ページから続く〕

あらゆる資料を調べました。その結果、ガンに関係すると考えられている食事性繊維（結腸ガンを防ぐ効果があると考えられています）、脂肪や獣肉（乳ガンや結腸ガンに罹病する確率を高めると考えられています）を初め、果物や野菜（ビタミンAには抗ガン作用があると考えられています）に至るまで、食事の内容はアメリカ全土で極めて酷似していることが明らかにされ、この面からは乳ガンや結腸ガンの地域差は説明出来ないことが分かりました。

世界中（日本を除く）
同じ傾向がある

次にガーランドは、「日光が乳ガン、結腸ガンを防ぐ」と云う自説を裏付けるため、世界各国の日光と乳ガン、結腸ガンの発病率、死亡率の関連性を調べ、日本を除くと同様な傾向を認めることを明らかにしました（日本についてのガーランドらの見解は次号に記述します）。加えて乳ガンの死亡率が、同じ緯度でも都会になるほど高く、田舎では低いことを明らかにし、大気汚染や都会の生活様式がビタミンDを奪うのが原因になると予測しました。

予備的な報告

昭和五十八年十月一日付けの本紙に「光線浴にがん予防効果」の記事を掲載した際、ガーランドらの最初の研究報告を引用しました。彼らは日照時間の長短と結腸ガンおよび皮膚ガンの罹患率との関係を検討し、その中で日照時間が長くなるほど結腸ガンは減少するが、皮膚ガンについては有意差を認めないことを述べ、日光に抗ガン作用のあることを認めたのです。

著者は昭和五十七年四月一日の紙面に記載した「食事性繊維の効用」に、欧米の人々で罹患

率が高い結腸ガンや成人病がアフリカの住民で低い理由として食事性繊維の果たす役割が強調されているが、高繊維食は一つの重要な要因としても、同様にガンや成人病に対して予防効果を持つ日光も関係しているとする見解を付け加えておきました。ガーランドらの研究はこの考えの妥当性を裏付ける証左とすることが出来ます。

ガーランドらはその後も研究を継続し、結論的にはカルシウムに結腸ガンや乳ガンを防ぐ効果のあることを立証しますが、それは次号に記述します。

（続く）

謹 告
カーボン価格改定のお知らせ

平素はサナモアをご愛用戴き、誠に有難く厚くお礼申し上げます。

サナモアカーボンは、わが国初の国産医療用カーボンとして昭和13年に産声をあげてから今日まで、イビデン(株)の全面的な協力を得て改良に改良を加え、最高品質のカーボンとして皆様のご愛顧を戴いて参りました。

しかし最高品質のカーボンを今後とも安定して供給するためには、新たに無公害設備の設置、製造設備の更新等差し迫った問題があります。そのため7月1日よりカーボン価格を、1箱（10本）

2,300円（A、B、C、Dとも）に改定させて頂きます。ご愛用者各位におかれましては、この点をご賢察の上、ご了承下さいますようお願い申し上げます。

なお、当社といたしましては、更に高品質のカーボンを開発すべく研究を重ね、皆様のご要望に応える所存で御座居ますので、引き続きお引立てを賜りますようお願い申し上げます。

（株）東京光線療法研究所



サナモア光線協会

趣意書

天地創造の昔から、真の光、即ち太陽光線は、私たちに限らない恩恵を与えています。サナモア光線療法は、この太陽光線の健康増進、疾病予防および治療効果を利用した治療法です。従って、目に見える可視光線だけでなく、目には見えないが無くてはならない紫外線や赤外線を目的に応じて適切に放射しなければなりません。

このサナモア愛用者を以て、光線療法の研究を行うと共に、啓蒙普及活動を行うためサナモア光線協会を設立しました。サナモア光線協会は、設立の趣旨に賛同戴いた会員にて構成し、季刊紙「健康と光線」を発行します。

サナモア光線協会

医学博士 宇都宮 光明

協会では、会員を募集しております。

入会希望者は、左記宛御申込み下さい。

〒153 東京都目黒区目黒4-6-18

サナモア光線協会 TEL(03)七九三-五二八-
セーニ-五三二-

（本紙の無断転用を禁止します。）